

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 19 日現在

機関番号：32519

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26580067

研究課題名（和文）自然が書く文学：環境中心的文学批評への試み

研究課題名（英文）Nature's Agency in Literature: Ecocritical Experiments

研究代表者

芳賀 浩一（Haga, Koichi）

城西国際大学・国際人文学部・准教授

研究者番号：70647635

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、東日本大震災後に書かれた文学作品を環境批評（エコクリティシズム）の理論を用いて環境の視点から分析することにより、災害と文学作品の内容・形式の関係を総合的にとらえ、世界の環境人文学の中に日本の現代文学を位置づける試みである。

研究期間中に共著本を含めて論文を4本執筆し3本は既に出版されており、残りの1本は今年度中に出版される予定である。また学会発表も国内・国外合わせて4回行っている。

研究成果の概要（英文）：By drawing mainly on the contemporary eco-critical theories, this study tries to assess the relationships between the Great East Japan Earthquake and the forms and contents of the literary works written under its influence and situate them in the field of global environmental humanities by analyzing the works from ecological perspectives.

During the research period, I published two academic articles and wrote one chapter for a co-authored book that will come out this year. I also have done conference and workshop presentations four times during my research period three times in Japan and once in the U.S.

研究分野：文学批評、理論、現代日本文学

キーワード：東日本大震災 小説 環境批評

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 1990年代初頭にアメリカで「文学と環境学会」(ASLE)が設立されて以降、文学を環境の視点から分析する環境批評（エコ・クリティシズム）の方法が本格的に研究されるようになった。その動きは日本や西欧、そしてオーストラリア、東アジア、インド、南米へと世界的に拡がり現在に至っている。同時に、テーマも多様化し、我々の環境を構成するあらゆるものが分析の対象になるようになった。

(2) 21世紀に入り、北米を中心に英語圏では環境批評の理論書や分析書が数多く出版されるようになった。しかし、日本における環境批評は、世界の動向の部分的な紹介にとどまっているのが現状である。例外的に石牟礼道子の『苦界浄土』が近代化による自然破壊を描いた文学作品として世界的に知られているが、それ以外の文学作品が環境批評のテキストとして注目されることは稀である。世界における環境批評の中で、日本発の批評が占める割合は低く、日本における自然・文化環境の持つポテンシャルが十分に活かされていない。

## 2. 研究の目的

(1) 日本における文学研究が対象が近現代である場合でも依然として人間を中心的視点とする近代的枠組みの中でのテーマ研究に終始している現状に対し、「環境」という真にポスト近代的な視点と価値観から文学の分析を行うことによって、日本国内の文学研究に一石を投じることである。

(2) 世界の環境文学の中で、日本の特色として挙げられるのが震災文学の豊富さである。特に2011年3月の東日本大震災は、大量の文学作品を生み出している。本研究は世界の環境文学における一分野として震災文学を理論的に位置づけ、東日本大震災を機に生ま

れた文学作品を分析し、日本の近現代文学が環境批評の世界に特色ある貢献ができることを示す。

## 3. 研究の方法

(1) インターネットによる検索と資料取得、大手情報検索サイトおよび各種図書館、各種書店等の電子検索サイトより震災に関連する文芸作品を検索し、資料を入手。

### (2) 図書館での検索・資料取得

① 国会図書館における検索・資料取得

② 岩手県立、宮城県立、仙台市立、福島県立図書館等を訪問し、「震災復興ライブラリー」を中心に調査を行った。

③ 海外の図書館における資料調査。2015月にUC LAを基点に図書館調査を実施。

### (3) (1)、(2)以外の方法による資料調査

① 新聞・雑誌からの情報を基に資料入手。

② 文芸誌（新潮、群像、すばる、文学界等）の調査。

③ 学会等の交流から得られる情報による資料の入手。

### (4) 資料の整理と内容分析

① (1)～(3)によって得た資料を時系列的に整理し、その内容によって「震災をテーマとする作品」「震災との関連がある作品」「震災との関連が類推される作品」等に区分。

② 整理分類された作品の中から、特に震災との関係が強く、環境文学として意義があると思われる作品を選んで、内容分析を行った。

### (5) 研究成果の発信

① 内容分析した成果を学術論文として2本発表した。

② 整理した内容を基に市民公開講座にて成果を一般に還元した。

③ 国内外の学会およびワークショップ

にて研究の成果の一部を報告した。

#### 4. 研究成果

##### (1) 情報整理と内容分析から

- ① 持続的な情報収集により、震災に関連する文学作品（小説）は、一般に知られている以上に多く書かれ、内容も多岐に亘っていることが明らかになった。
- ② 小説作品は、詩・短歌・俳句などを含めた他の表現形式・メディアに比べ、圧倒的に震災へ反応するスピードが遅く、偶発的なケースを除き、作品が出版されるまでに2ヶ月以上の時間を要している。
- ③ 震災文学、あるいは環境文学というカテゴリーは従来の純文学・通俗文学といった分け方とはまったく違う形で存在しており、こうした分析の視点そのものが、従来の文学研究に対する新たな方法の提議として意味があると考えられる。
- ④ 始めから震災をテーマとして構想された小説が発表されるのは2011年9月ごろからであり、2012年～2013年の前半には大江健三郎、佐伯一麦、池澤夏樹、村田喜代子などの連載小説に加え、黒川創、辺見庸、玄有宗久、橋本治なども震災やその後の社会を見据えた短編小説を多く発表し、震災小説が活況を呈した。
- ⑤ 震災をテーマとする小説作品は、アマチュアを含め、大手メディアに書く作家以外の人々によっても数多く書かれ、出版されており、東日本大震災が国民にとって共通する関心事であり、また出版社にとっても出版

意欲を掻き立てられるテーマであったことが窺える。

- ⑥ 私小説作品は震災に最も大きく影響を受けた。本研究代表者は、震災に直面した私小説が提起した問題と可能性について論文を執筆した。

##### (2) 研究の意義・インパクト・今後の展望

- ① 地震に触発されて書かれた文学作品というのは世界的にみても非常に稀であることから、環境文学の中の災害文学というカテゴリーにおいて、日本の震災文学は特異な位置を占め、震災文学は今後、日本の文学・文化の特徴のひとつとして認識されるようになる可能性が高い。それは、海外においても東日本大震災をテーマとした小説が書かれ、また多くの震災関連書籍、地震をテーマとした日本研究書が出版されていることから明らかである。本研究はそうした世界的な関心に対して日本からの研究として応えるものであり、今後とも持続して進める必要がある。
- ② 今後の展望としては、本研究を更に精緻に進めることによって震災を一時的な関心に終わらせず、復興による社会作りの一部として震災文学を評価しつつ、環境からの批評を日本に定着させ世界文学の中に位置づけていく。具体的には、論文発表、研究発表を本にまとめる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

- ① 芳賀 浩一、「エコクリティシズムの潮流1」城西国際大学紀要 24 巻、1-16 頁、査読有、2016 年。

② 芳賀 浩一、「東日本大震災から読む佐伯一麦の『還れぬ家』：環境の物質性と小説の創造」『文学と環境』第 18 号、17-30 頁、査読有、2015 年。

〔学会発表〕（計 4 件）

1. 芳賀浩一。「環境批評と奥泉光『東京自叙伝』」2016 年度日本近代文学会秋季大会、2016 年 10 月 16 日。福岡県福岡市福岡大学。

2. 芳賀浩一「環境文学としてのポスト 3.11 文学の可能性」2015 年 ASLE-J：文学と環境学会 全国大会。2015 年 8 月 23 日。長野県小諸市安藤百福自然体験指導者養成センター。

3. Koichi Haga. 「Reading Agencies of Planet Earth in Literature」Workshop: Contemporary Japanese Literature in Global Context. 2015 年 5 月 14 日。アメリカ、カリフォルニア州ロサンゼルス、UCLA.

4. Koichi Haga. 「Ecocriticism and Object-Oriented Ontology」Literature and Environment in East Asia, 2014 年 11 月 22 日。沖縄県名護市名桜大学。

〔図書〕（計 1 件）

Keijiro Suga、Masami Yuki 他 編『Ecocriticism in Japan』共著 Lexington Books、Koichi Haga 「Literary Ground Opened in Fissures」2017 年刊行予定。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

芳賀 浩一 (HAGA, Koichi)

城西国際大学・国際人文学部・国際文化学科・准教授

研究者番号：70647635

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

## (4) 研究協力者

( )